

# 戦後の流行曲と社会

53期生

## I テーマ設定の理由

戦後約50年、日本は大きく変わってきた。そして、そういう社会の変化の影響が色濃く表れる物の1つとして、芸術があると思う。そこで、今回は芸術の中でも音楽（いわゆる流行曲）にスポットを当てて、日本の変化を調べていく事にした。

## II 研究方法

- (1) 文献調査 文献でその時代の社会状況・事件、流行曲について調べる。
- (2) 推察 2つの相互関係を分析する。

## III 研究内容

- (1) 調査対象  
1970年～1994年の25年間
- (2) 調査方法
  - ①文献調査で1年ごとに、その1年の事件・出来事と、主な流行曲を10曲選び出し、資料とする。
  - ②選んだ10曲の流行曲を分類分けする。

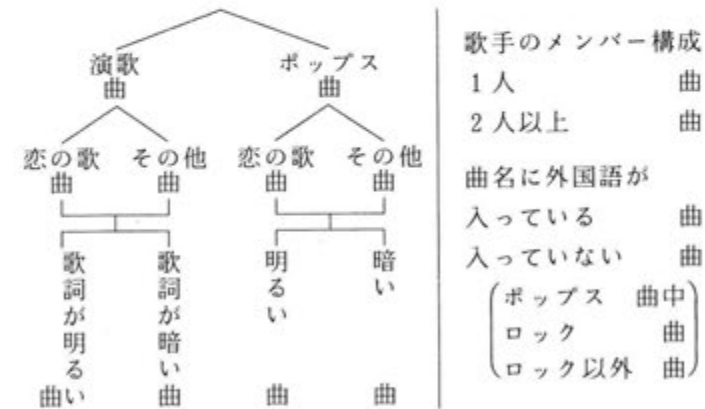


図1 流行曲の分類分け表  
※この表を使って、各年の主な流行曲十曲を分類分けする。

- ③総評として、5年ごとに (i) 経済の様子・(ii) 社会の様子・(iii) 音楽の様子をまとめ、それをもとに (iv) 流行曲と経済・社会の様子の関係をまとめる。

## (3) 調査結果 ～5年ごとの総評から～

### ①1970～1974年

#### (i) 経済の様子

1970年末にいざなぎ景気が終わってから、下り坂に入った。そのトドメともいえる

のが、オイルショックである。

(ii) 社会の様子

明るい話題では、万国博覧会・沖縄返還・札幌冬期オリンピック・パンダ上野動物園に・多国との国交樹立があり、暗い話題では、公害問題の深刻化・連合赤軍の事件・1972年に多発した飛行機事故がある。

(iii) 音楽の様子

フォークソングが全盛だったが、演歌も根強い。また、シンガーソングライター(作詞・作曲を自分で行う歌手)も登場しはじめた。

(iv) 流行曲と経済・社会の関わり

経済は好景気から不景気へ、社会は多くの死者を出した飛行機事故(全日空機と自衛隊機の空中衝突など)、田中首相の逮捕などで混乱していた。流行曲もそれを反映するかの様に、演歌とポップス・明るい歌と暗い歌が入り乱れて、統一感がなくなっている。

②1975～1979年

(i) 経済の様子

景気は1970～1974年の状態より悪化し、企業の倒産や公定歩合引き上げが起こった。

(ii) 社会の様子

女性の活動が活発化してきた。しかし、学生の爆弾テロや1977年の青酸コーラ事件の様や無差別的な愉快犯も現れ始め、いつ自分がねらわれるか分からないという社会の状態は、不安定だったといえる。

(iii) 音楽の様子

フォークソングから変化してニューミュージックが現れた。演歌も、メロディーの感じが優しいものが増えた。また、「カスマブゲ」を歌う李成愛の様な、韓国・台湾など近い国外からの歌手もやってくる様になった。

(iv) 流行曲と経済・社会の関わり

女性の社会進出が活発化した頃で、従来の演歌に多い「男につくす女」を歌う演歌が減った。また、1972年の「列島改造推進政策」の名残りか、地方(あるいは故郷)に目を向けた曲が多い。

③1980～1984年

(i) 経済の様子

国内は不調だが、海外との貿易は好調だった。しかし、このころから貿易摩擦が起こりはじめた。

(ii) 社会の様子

世間ではグリコ森永事件、学校や家庭では不登校や家庭内暴力など、不安定であった。

(iii) 音楽の様子

「不倫」をテーマにした曲が多い。歌の曲調はだんだん速くなってきて、ロックのきざしがある。歌の題名に外国語の入った物が増えてきた。

(iv) 流行曲と経済・社会の関わり

1970～1974年に、社会はグリコ森永事件、不登校や家庭内暴力で乱れていた。それを反映するかの様に流行曲では、恋の歌に「不倫」が取り入れられた。

④1985～1989年

(i) 経済の様子

1987～1989年は、バブルの絶頂期であった。人は財テク(土地、株、貴金属)に熱を上げ、金使いが荒くなった。

(ii) 社会の様子

バブルの絶頂で人はうかれて、良い様に見えるが、1989年の連続少女殺害事件の様な事件も起こり、道徳心の欠如が感じられる。

(iii) 音楽の様子

ロックが増え、ポップスもロック的な物が増えてきた。グループやアイドル歌手が増えた。1980～1984年にひき続き、歌手名・曲名に外国語が含まれる物が目立つ。

(iv) 流行曲と経済・社会の関わり

バブル景気で社会がうかれているのを反映して、流行曲も軽くて明るいものが増えた。

⑤1990～1994年

(i) 経済の様子

人々はまだ羽振りがいいものの、バブル崩壊のきざしは完全に見えており、国の財政は厳しくなってきた。それがよく分かるのが、消費税率の引き上げである。

(ii) 社会の様子

この5年は国内外とも激動の時代だったといえる。世界ではベルリンの壁の崩壊、日本国内ではPKO協力法、1991年の雲仙・普賢岳の噴火・93年の北海道南西沖地震などの天災、不安定な政治、オウム真理教の事件など…、色々な事が激しく動いた5年といえる。

(iii) 音楽の様子

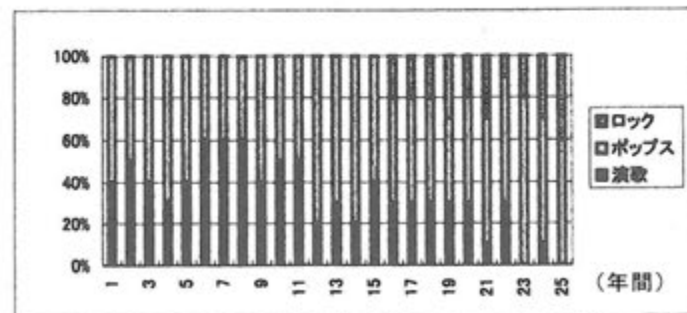
ロックやロック系のポップスの勢力が大きくなり、演歌は完全に衰退してしまった。

(iv) 流行曲と経済・社会の関わり

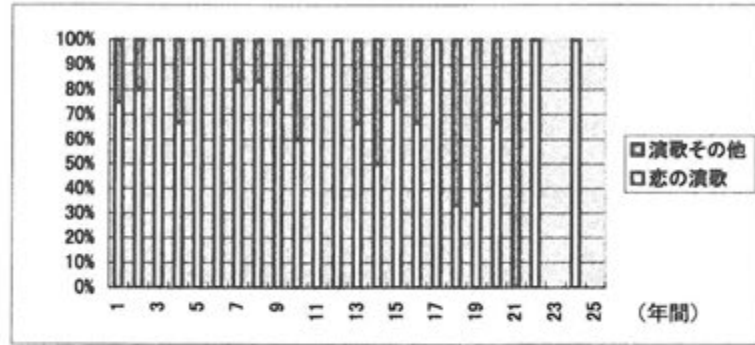
色々なジャンル、色々な個性が表れ、流行曲全体という1つの形にして経済・社会とのつながりを探すのは難しいと思われる。

IV 参考資料

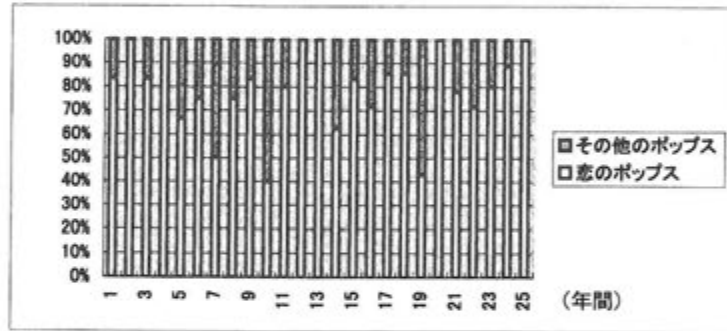
※縦軸が、各年の分類分けに用いた流行曲10曲全体を100%としたパーセンテージで、横軸は、1970年を1、1994年を25として、調査対象とした25年間を表す。



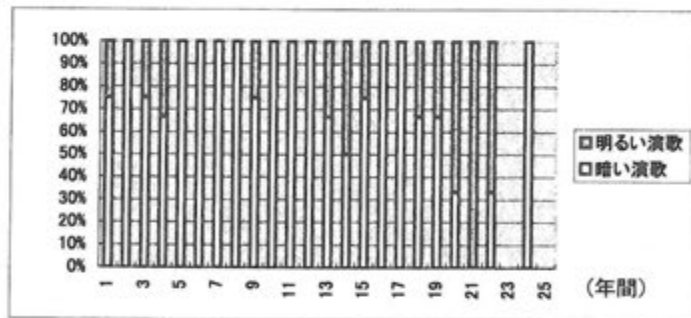
◀図2  
ロック・ポップス・演歌  
の年別の数の関係



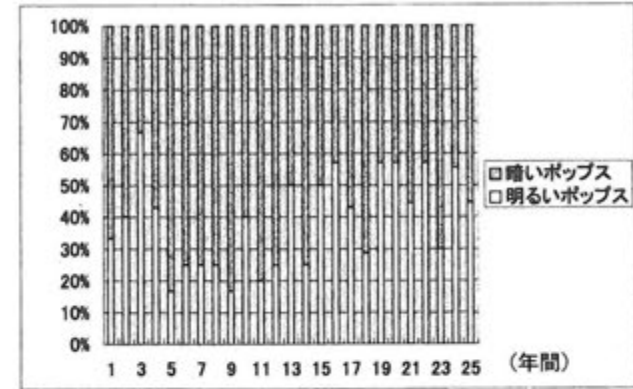
▲図3 恋の演歌・その他の演歌の年別の割合の関係



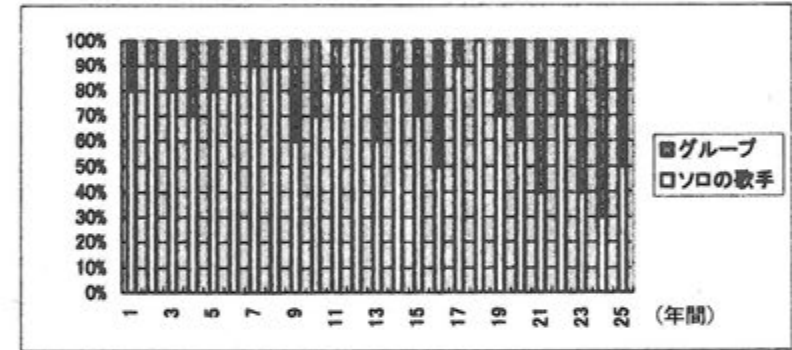
▲図4 恋のポップス・その他のポップスの年別の割合の関係



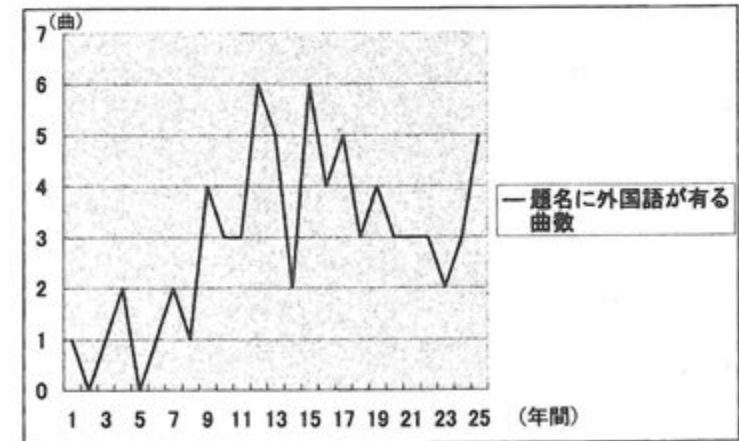
▲図5 明るい演歌・暗い演歌の年別の割合の関係



▲図6 明るいポップス・暗いポップスの年別の割合の関係



▲図7 グループとソロの年別の割合の関係



▲図8 曲名に外国語が含まれる曲の数の変化

## V 感想

もっと多くの流行曲・データについて調べられていたら、もっと確信の持てる推察ができたのに、時間がなくて出来なかったのが残念だった。

それから、パソコンを利用して資料整理を手伝ってくれた兄と、昔の事件等について話を聞かせてくれた父に、この場を借りてお礼を言いたいと思います。

## VI 参考文献

「日本史年表」「日本流行歌史」